

第14回 BACHスクリーンコンサート

2022. 7月



7月のテーマ 愛の名曲集

作曲家は自分の思いを恋人や妻、家族などに伝える音楽作品を残してきました。自分の愛する人への告白など、その場に應じた愛の音楽を贈っています。一度は耳にしたことがあるハートマークに溢れた楽曲11作品を選んでみました。

1、ワーグナー『ジークフリート牧歌』 (4分)

ワーグナーが妻コジマへの誕生日とクリスマスのプレゼントとして作曲したものです。ジークフリートとは前の年に生まれた長男の名前です。ワーグナーが56歳にして始めての子供を生んでくれた感謝の意味もあって、このタイトルにしたと言われています。

2、クライスラー『美しきロスマリン』 (5分)

「ロスマリン」とは、ハーブとして有名なローズマリーの事を指します。クライスラーは花の美しさや香りの良さを音楽にしたわけではなく、若い娘たちのことを「ロスマリン」に重ね合わせて、この曲を作曲したのではないのでしょうか。

3、エルガー『愛の挨拶』 (3分30秒)

エルガーが婚約者のキャロライン・アリス・ロバーツに婚約記念として贈った作品です。当時のエルガーはまだ無名の作曲家でした。キャロラインは8つも年上で、しかも陸軍少将の娘という事から、身分の違いのため周りからは結婚を反対されますが二人の思いは変わらず、反対を押し切って結婚します。その後、エルガーが63歳の時にアリスが先に逝くまで、二人は32年間仲良くお互いを支えながら暮らしたそうです。

4、グリーグ『君を愛す』 (3分)

歌曲集『4つのデンマーク語の歌』『心のメロディ』の第3曲目の「君を愛す」をグリーグは20年後にピアノ曲に編曲しました。

この作品を聴いていると、グリーグが如何に妻を愛していたのかがよく分かります。実に深い音楽です。それに何と単純なタイトルでしょう。「君を愛す」この事だけを語っている音楽です。

5、シューマン(リスト編曲)『献呈』 (3分30秒)

シューマンが作曲した26曲からなる連作歌曲集『ミルテの花』の第1曲目です。

シューマンは結婚式の前日に『ミルテの花』を妻になるクララに贈ったのです。

この二人も結婚までは様々な困難があり、それを乗り越えて結ばれました。この歌曲集はシューマンの喜びが溢れているもので、その第1曲目はリストも気に入り、ピアノ曲に編曲したのです。

6、リスト『愛の夢』第3番（5分）

この作品も愛に溢れる作品で、リストがピアノの魔術師と言われるのが良くわかります。当初は歌曲として発表されたが、それをリストは1850年（39歳）にピアノ曲に編曲したのです。何度聴いても飽きることのない素敵な作品です。

7、ブラームス『愛のワルツ』（2分）

この作品は短い曲ですが全てが詰まっているように思います。

ブラームスが書いたワルツ集の「第15番」です。この作品は最初ピアノ連弾用に作曲されていたが、人気が高かったこともあり、ピアノ独奏用に編曲され、更に子供でも演奏しやすい簡易版までも出版されました。

シューマンの妻であったクララの事でも考えながら作曲したのかも！

8、チャイコフスキー ロマンズ（6分）

チャイコフスキーが想いをよせていたメゾ・ソプラノ歌手デジレー・アルトーに献呈された曲です。結婚も考えたほど愛する女性でしたが結婚することはありませんでした。失恋のようなものだったのでしょう。

テンポが遅いわけではありませんが、切なくどこか哀愁を漂わせる旋律が印象的です。

9、ベートーヴェン「エリーゼのために」（4分）

本当は「テレーゼ（Therese）のために」という曲名だったところ、ベートーヴェンの字が汚くて読めなかったので「エリーゼ（Elise）のために」になってしまったと言われています。実際に当時ベートーヴェンはテレーゼ・マルファッティという女性に恋をして求婚したという説もあります。

10、ウェーバー「舞踏への勧誘」（10分）

ウェーバーが結婚後2年目に妻カロリーネに贈った作品です。この作品を贈った時にウェーバーは妻に向かって、1小節ごとにピアノを使い説明したとの逸話も残っています。男性が女性をダンスに誘うところから音楽が始まり。会話を交わしたあと二人はダンスを踊り始める。華麗な舞踏会の光景を見事に音楽で表現しています。楽しく踊っているウェーバー夫妻が目に見えるようです。

11、ショパン「ピアノ協奏曲第2番第2楽章」（10分）

ショパンが初めて作曲したピアノ協奏曲第2番（第1番が先に出版されたので第2番となっている）この第2楽章は当時19歳だったショパンが恋心を抱いていた同じワルシャワ音楽院に通うソプラノ歌手コンスタンツィヤ・グワトコフスカへの想いを表現したと友人宛ての手紙にある。しかしその恋の行方は繊細でナイーブなショパンがコンスタンツィヤに思いを伝えられず片思いで終わったと言われています。